

26年度交通局運営方針自己評価シート

1 自己評価結果の総括

(1) 1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

交通局では、「全員参加の安全の追求」、「実感できるサービスアップ」、「徹底した効率化と増収対策によるさらなる経営基盤の強化」に取り組み、概ね目標どおりの成果が得られた。

・安全の追求については、風通しの良い職場づくりを通じた職員の安全意識の向上に取り組み、職員からのヒヤリハット情報の倍増を目標として取り組んだ結果、前年度比3倍と大きく増加し、職員の安全に対する意識の向上を実感している。引続き、気づき力の向上に取り組み、安全を通じた経営参画意識の醸成に努めてまいりたい。また、バスにおける責任事故の削減については、昨年・一昨年と目標未達であったが、26年度の速報値においては、目標を達成している。今後も引続きPDCAサイクルを機能させ、より一層の安全を追求してまいりたい。

・サービスアップについては、ハード・ソフトの両面からお客さま満足度の向上に取り組み、清潔感のある快適なトイレへの改善や駅清掃のクオリティアップのほか、事業所、車両及び駅を活用したイベントなどブランドカアップの向上も図った。また、お客さまからも地下鉄・バス職員に対して目標を上回る評価をいただいている。

・経営基盤の強化については、地下鉄事業においては、増客及び附帯事業の増収に努めた結果、平成23年度に比して3,000万人を超えるお客さまにご利用いただき、昨年度を上回る約348億円の経常黒字を見込んでいる。一方、バス事業においては、2年連続の利益を確保し、約10億円の経常黒字を見込んでいるものの、オスカードリームの和解金等支払いにより、大幅な資金不足に陥ったため27年度中に経営健全化計画の策定が必要となっている。

(2) 解決すべき課題と今後の改善方向

・地下鉄事業においては、上記各々の分野で一定の成果を上げることができたが、これは我々の取り組みをご支援いただいたお客さまのご利用によるものであり、引続き、沿線、大阪のまちのさらなる活性化に貢献できる民営化の実現により、大阪圏、関西圏の交通インフラを支え、大阪の経済活性化に貢献してまいりたい。

・バス事業においては、巨額の資金不足を有していることから、持続的かつ安定的な輸送サービスを確保していくために、民営化の取り組みを早期に進める。